

18年度 サンゴ礁保全対策事業(オニヒトデ駆除)実績

市町村名		駆除事業費	駆除海域	駆除数	前年度	駆除日数	重点海域の状況
奄美市	名瀬地区	1,470,000	大浜周辺	4,874	140	17	大浜周辺に大量発生。オニヒトデの産卵前に集中的に駆除を実施。20～30cm程度の個体が多く、被度の高いところを中心に侵入を行う。ミドリイシ類の被害が大きい。他のサンゴはなんとか守られている状況。また、海中公園区域への侵入は防げている。
			崎原	303	—	2	年明け頃からオニヒトデが増加。食跡も目立つ。
	笠利地区	993,000	用安	982	352	7	30cm以下の個体が殆どである。
			節田	852	427	6	
大和村	740,000	ヒエン浜	6,457	—	10	食痕が多く見られ、サンゴ被度は40%に悪化している。卓上ミドリイシ・塊状キクメイシ混成。	
宇検村	799,000	屋鈍	239	80	4		
		生勝	226	180	5		
		平田	38	—	1		
瀬戸内町	9,253,000	安脚場・黒崎	3,077	9,266	132	期間限定買取方式により、別途 5,400千円で9割の駆除を行っている。	
龍郷町	1,059,000	宇天	28	—	3	ユビエダハマサンゴの群体が多く、所々にクロマツミドリイシが見られる。	
		ナベコラ崎	2	—	1	ユビエダハマサンゴの大きな群体が見られる。10m以浅には、ミドリイシ系のサンゴも見られる。	
		戸口(アウン)	78	—	2	ミドリイシ系のサンゴが増えている。	
		戸口(白浜)	167	—	5	白化現象後、復活したサンゴが見られる。生サンゴは、場所によっては70%近くになっている。	
		番屋先	23	—	2	宇天地点とほぼ同じ。ただ10m以浅では、ハマサンゴが多く、その間にミドリイシ類も生きている。	
		武運崎	7	1,208	1	全てのサンゴが、死滅状態だが少し残っているものにオニヒトデが寄っていた。	
		秋名	4	105		サンゴは全て死滅状態。復活はまだ先のように思える。	
		嘉渡	0	—	1	イサンゴ系は全て死滅。ソフトコーラルが少し。	
徳之島町	1,368,000	畦	744	764	23		

18年度 サンゴ礁保全対策事業(オニヒトデ駆除)実績

天城町	990,000	ツインポイント	35	20	6	死滅したサンゴに海草類が生育している状況。新しいサンゴは見あたらなかった。
		与名間	20	—	5	ソフトコーラル系のサンゴが元気よく生き残っていて、被害は余り見受けられなかった。
伊仙町	363,000	面縄港東側	76	181	1	サンゴは白くなっている。
		喜念崎	28	70	1	サンゴが白くなっていて被害が大きい。
		佐弁	334	274	5	サンゴがボロボロになって死んでいる。
和泊町	480,000	美瀬	151	371	3	生きているサンゴがたくさんあり、小魚も多くいた。去年に比べ、サンゴが生き生きしているように感じた。
		南栄	37	77	1	サンゴが生き生きしているが、所々オニヒトデによる食害が目立った。
		西原	0	0	4	サンゴ被度25-75%。レイシガイによる食害は見られたものの、オニヒトデによる食害は見られず。
		根折	0	0	3	サンゴ被度25-50%。オニヒトデ及び食害は発見できなかった。
		出花	4	—	3	レイシガイによる食害が見られた。オニヒトデの食害は無かった。
		ワンジョ	0	—	3	気温上昇による白化は見られるが、オニヒトデやレイシガイによる食害は見られなかった。
		シナハ	56	—	2	枝サンゴが多くあり、生きているサンゴが多かった。レイシガイによる食害が見られた。
知名町	630,000	屋子母	112	118	3	
		屋者	27	62	1	白化がひどく、黒い藻のようなものが付着している。
与論町	948,000	茶花沖	18	100	5	
		赤崎南東	13	62	5	
		赤崎北東	15	54	5	
		百合が浜沖	11	43	5	
		湯浜沖	10	45	5	
合計	19,093,000		19,048	13,999	278	

注：瀬戸内町は、ボランティアによる駆除、町単独事業等を含む。